

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890800012		
法人名	社会福祉法人 聖徳園		
事業所名	グループホーム あわら聖徳園		
所在地	福井県あわら市田中々3-25-7		
自己評価作成日	平成26年 08月 05日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成26年9月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地内に同法人が運営している保育園・児童館・児童家庭支援センターがあり、それぞれの事業所を利用して子供達との交流があり利用者の楽しみとなっている。1階にある小規模多機能とも連携を図り外出・行事等一緒に開催する事で沢山のの方々との交流を持っている。利用者の希望を聞き、外食会を企画し地域のお店に出掛けたり、地区の奉仕活動・お祭り・体育祭などにも参加して地域の方々との交流が出来る機会を設けている。出来る範囲での家事の手伝い・得意分野での作品作り・料理教室・習字教室など生きがいを持ち意欲的に生活出来る様に支援を行っている。ご家族の方々とは、行事や外出の際に一緒に出掛けたり、日々の園での様子をお知らせ出来る様に毎月はなみずき新聞を発行してコミュニケーションを図れるように努力をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所はあわら湯の町駅から徒歩約10分程度の住宅街に立地している。小規模多機能型住宅介護、保育園、児童館、児童家庭支援センターが併設され、互いの事業所が交流を持ち、地域に根付いた事業所となっている。また、地区の行事に参加したり、地域住民に夏祭り等法人の行事に参加してもらったりして、地域に開かれた事業所運営にも力を注いでいる。法人理念に基づく品質目標や接遇スローガンを掲げ、定期的に見直し・改善を図ることで、サービスの向上に努めている。内部・外部研修において、職員一人ひとりの資質向上ならびに人間力の向上に力を入れるとともに、家族との連絡を密に取ることで、利用者が尊厳を守られた穏やかな日常生活を送れるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「高齢になっても障害を持っても住み慣れた地域で自立した良質な生活を過ごせるように支援します」という理念に基づき取り組んでいる。法人手帳にも記載し各会議の際には福祉観を唱和し職員全員が理念と姿勢を確認している。	法人理念を実践するために事業所独自で年間目標を策定し、「常に改善していこう」の精神に沿って半年毎に見直し、サービスの向上に努めている。また、会議前に唱和したり理念・目標が記された手帳を常時携帯したりする事で、理念や目標を常に意識しながら実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや体育祭・奉仕作業などにも参加している。地域の自治防災会にも加入し災害時の緊急避難場所として受け入れる事も考慮している。運営推進会議にも地域の方の参加をお願いしている。	自治会に加入し、地区の防災会議等にも積極的に参加するとともに、地域住民に夏祭り等法人の行事への参加を呼びかけることで地域との交流を深めている。また、地域住民からの希望により介護予防教室も開催している。	自治会や老人会等へ介護予防教室を含め事業所の周知を継続的に行うことで、地域の社会資源として中心的な役割を担うことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症について話し合いを行ったり、天気の良い日には近隣を散歩する機会を設けて地域の方への挨拶を行い認知症を理解してもらえようとしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度地域・ご家族・行政・場合によっては利用者に参加して頂き様々な意見・助言・要望などを頂きサービス向上に努めている。	民生委員や自治会長・地域の議員等が参加し、地域での情報が幅広く得られるように工夫している。会議に参加できなかった家族に対しては、報告書により情報を随時提供している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村が開催する定例会に可能な限り参加出来るように努めている。運営推進会議に参加してもらう事で当事業所の取り組み・運営を理解してもらえようとしている。	入所当初は特に市職員や地域包括支援センター職員等との連絡を密に取り合うとともに、必要時に意見を求めることもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員に対し身体拘束についての研修を行い身体拘束を行わないケアの実践に取り組んでいる。緊急時においてベツ柵などの使用を行わなくてはいけない場合にはご家族の承諾を得ている。しかし利用者の安全を確保するために施錠を行う場合もある。	毎年職場内研修を実施し、拘束のない支援の実践に努めている。利用者の安全を確保する目的で、必要時はホールの入り口を施錠する場合がある。また、「接遇スローガン」を掲げ、毎月見直しを行うことで、サービスの向上に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が研修を通して勉強会を行っている。虐待など決して行われないように細心の注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している方がおられ定期的に担当の方がお見えになる。わからないことはその際に聞いたりして他の職員にも伝達行い、みんなで理解を深め活用出来るように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には十分に説明をおこない納得して頂けるまで説明を行っている。希望される方や不安がある方などには体験宿泊なども行ってもらい安心して利用出来るように取り組み行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設けている。年に1回はアンケートを作成し利用者・ご家族の意見・要望・希望などを聞いて運営に反映出来るようにしている。	家族の面会時に意見や希望等を聞き取っている。日頃から細かいことでも家族に連絡を入れることや年1回アンケートを実施することで、意見や要望を話しやすい関係の構築に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回フィードバック面接の際に職員の意見・提案を聞く機会を設けている。職員会議の際に意見交換を行っている。	年2回のフィードバック面接や随時提出できる業務改善提案書により、職員の意見や提案を伝えやすい環境を整備している。また、出された提案を職員会議にて話し合い、運営に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課やフィードバック面接を行って職員個人個人の意見や思いを聞く機会を設けている。その際に意欲を持って業務に取り組めるように必要な助言を行ったりしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り希望する研修への参加を実施出来るようにしている。職員が講師となり毎月内部研修を開催する事でトレーニングを行えている。法人内の研修にも希望者は積極的に参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出来る限りケアマネの定例会やGHの連絡協議会に参加し他事業者との交流の機会を作っている。他事業所への訪問も行い連携を取れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族と話し合う機会を多く持ち私の気持ちシートを作成して本人の思い・考えなどを理解出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に相談受付を行って利用者本人の状態・ご家族の希望・要望などを伺いより良い関係を持てるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス前に体験で宿泊を行って頂き、本当に本人に必要なサービスであるかどうかを見極め宿泊体験の様子をご家族に報告し必要な支援であるかどうかの話し合いを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや掃除・洗濯など職員と利用者同士が一緒に行い共同生活の中で家庭で過ごしているような環境を作り出していく努力を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時間の規制をせず自由に来園して頂き、来園時には話をする機会を持ち、問題が発生した場合にも速やかに報告し共に考えながら解決していくように努めている。家族の方と一緒に掛けたり行事に参加したりしてコミュニケーションを図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が今まで行ってきたお墓参り・行きつけの床屋に出掛けたり、地元のお店に買い物に行ったり可能な限り家に居た時と同じ関係を続けていけるよう努力している。	地域にある商店や墓参り、美容室等への外出を積極的に行っており、馴染みの関係が継続されるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が談笑したり共に作業する事で関係性が良好になるように努めている。利用者同士で声掛けし合ったり、協力し合ったりしているが、利用者同士の関係性がすべてにおいて良好にいつているとはいえない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、暫くの間状況を伺ったり必要に応じて相談なども行ったりしている。可能な限り関係性を保てる努力を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族と話をする機会を多く持ち、普段の様子や発言などに注意を払い本人・ご家族の思いや希望などの把握に努めている。心身の情報(私の姿と気持ちシート)を用いて本人の思いをより理解出来るように努めている。	会話中の表情や仕種から本人の思いや意向を把握するように努めている。得た情報は「私の姿と気持ちシート」に記録することで職員全員が情報を共有し、適切な支援ができるように工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の生活の中の利用者との会話の中でこれまでの生活歴や環境の情報を得て記録に残したりご家族来園の際に伺うなどして把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で本人の身体的・精神的変化に職員が気が付く事が出来る様に注意深く観察し状況の把握が出来るように努めている。その日の状態を処遇日誌に記録して職員全員で周知できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現在の状況を把握し本人・家族と話し合いを行い計画書作成しているが、本人の意向が定かでない場合はご家族と話し合いを行い状況に見合った提案を行っている。	担当者が作成したモニタリングや家族からの意見・要望等を参考にしながら、サービス担当者会議にて計画の作成・見直しを行っている。必要に応じて随時計画の変更・見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気付きは記録に残し、職員間で共有している。毎月モニタリングを行いサービス内容が適切かどうか見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況を考えて可能な限り必要とされる支援に対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人一人の地域資源を把握する努力は行っているが、本人が心身の力を発揮しながら暮らしを楽しんでいるとはいえない。今後は地域資源との協働を実践していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との情報交換を行っている。必要時には往診をして頂いたり、職員が受診に付き添うなどしている。	かかりつけ医への定期的な通院は家族に同行してもらい、受診結果を聞いて情報を把握している。家族不在時や緊急時は職員が同行し、受診用ノートを使用して医療機関に情報提供を行うとともに、受診結果をその都度家族に伝達している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	午前中勤務している看護師がおり利用者の状況を確認・報告している。変化があったり、必要と思われるときは受診の付添や指示をもらっている。不在の場合でも連絡を取れる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合には情報提供を行い、退院時には病院へ出向き今後の生活に必要な支持を受けている。退院後の受診にも付き添いを行っている。入院中も忘れることのないように可能な限り病院へ出掛けて状況を見守るように心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には重症化したり終末期についての説明を行っている。状態が悪化した場合は早めにご家族にお伝えして相談を行い、必要な措置を取るようになっている。	法人の方針として看取りは実施しておらず、身体状況が悪化した場合は病院等に移行することを利用契約時に書面にて家族に伝えている。また、状態悪化時には早めに家族と連絡を取り合い、必要な措置が取れるようになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応時の手順書を作成し、緊急時対応シートを準備し急変時の対応に備えている。研修なども行い急変時や事故発生時の対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回避難訓練を実施。その中で年2回は消防署立会いのもとで実施している。地域の自主防災会にも加入して防災訓練への参加も行っている。	火災や水害だけに留まらず、不審者対応の訓練も実施している。警察ホットラインを設置したり防災会議へ参加したり、市と協定を結ぶことで、地域との協力体制を築くように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修などで学ぶ他に、声掛けや対応などについては一人一人の状況に合わせて行いプライドを傷付けないように配慮している。個人に応じた対応を心掛けている。	研修を通してプライバシー保護や情報管理について学ぶとともに、一人ひとりの尊厳を重視し、適切な声掛けや支援ができるように職員同士で話し合い、注意しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを大切にして可能な限り自己決定が出来る様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個人のペースに合わせてその人らしい生活が出来るように本人の意向を考慮して支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの床屋へ出掛けたり、訪問美容サービスに来て頂いたりしておしゃれにも気を付けてもらえるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けなど出来ることは一緒に行っている。楽しみに一つとして希望を伺い外食会も開催している。月に1回は料理教室を行い、職員と利用者が一緒に調理を行い楽しく食べる事を行っている。	テーブル拭きや後片付け等食事の準備などを一緒に行ったり、お菓子作りや外食をしたりするなど、楽しく食事が摂れるように工夫をしている。月1回給食会議を開催し、利用者の希望に添えるように配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の食事量の把握を行い、脱水にならないように定期的に水分の確保も行っている。必要に応じて食事の形態も考慮して支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や食後の歯磨きは出来る方には声掛け支援を行う。出来ない方に関しては必要な口腔ケアを行っている。就寝時には入れ歯洗浄剤に浸けるなどし清潔を維持している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ使用でも、出来るだけトイレにて排泄出来るようにトイレ誘導を行い自立に向けての支援を行っている。	居室にトイレが設置されており、介助等を受ける場合でもプライバシーが配慮されている。また、日頃から利用者一人ひとりの排泄状況を把握し、さりげない声掛け等による排泄誘導を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールが必要な方には排泄表を作成して主治医や看護師の指示のもと支援を行っている。そうでいなくても日頃から十分な水分補給をしたり、おやつ時には果物を食べて頂いたりして工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1対1での入浴の為、職員と十分にコミュニケーションを図りながらゆっくりと入浴していただいている。しかし小規模と共同の浴室なので時間的に自由が効かない場合もある。	檜の浴槽に週3回程度入浴している。希望があれば追加でシャワー浴を利用することもできる。同性による1対1の入浴支援を実施しているが、希望があれば複数での入浴にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温に十分注意を払い安眠して頂けるように支援している。体調がすぐれない時は自室にて休んで頂き、職員が各居室へ行き対応するようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋はファイルし急に必要の場合でも確認できるようにしている。薬に変更があった場合は処遇日誌・連絡ノートに記載して把握できるようにしている。服薬確認ノートがあり服薬ミスが無いように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントの時に本人やご家族から話を聞いたり日々の生活の中で気付いた事を職員間で話し合い楽しみや生きがいを持って生活出来るように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩・買い物の他に本人が希望される場所へ可能な限り出掛けることが出来るように支援を行っている。地域の行事にも参加させて頂いている。今後はご家族との小旅行などの企画も検討している。(25年度は紅葉狩りに出掛ける)	日光浴や散歩を日常的に行うなど、積極的に外出支援を行い、希望があれば随時外出できるように配慮している。今後は家族を含めた一泊旅行を目標に、更なる外出支援に取り組んでいく予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の希望でお金は園側で預かっている。買い物の際などには本人に支払いを行って頂けるように見守り行っている。出納帳を作成し定期的に家族の方には確認して頂いている。毎月収支報告を紙面にて報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望すればいつでも電話が掛けられるようにしている。年賀状なども作成しご家族に送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じてフロアの飾りつけを行ったり、部屋の出窓にはプランターに花を植えたりしている。夏にはグリーンカーテンを植えて季節感を出したりして過ごし易い工夫を行っている。室温にも配慮している。	共用空間は開放感があり、作品の展示や適度な照明・空調により、ゆったりと快適に過ごせるように工夫している。窓の外にプランターに植えられた花やグリーンカーテンを設置し、季節を感じてもらえるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでは自分の席が決まっていた話をしたい時テレビを観てくつろぎたい時などは各々がフロアにて過ごされる。ゆっくりしたい時などは各部屋に入りゆっくりと過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より使い慣れたものを持参したり、家族の写真や飾り、ポスターなどを貼って自分の思い通りの部屋にしている。散歩の際に摘んできた草花などを飾ったりして自分好みの部屋にされている。	馴染みの物を持ち込んでもらうことで、住み慣れた環境での生活が継続できるように支援している。また、居室にトイレがあり、ストレスを感じずに生活ができるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人個人の能力を把握してそれを活かしながら生活できる環境を整え安全に生活できるようにしている。		